

# 急性心筋梗塞患者における 退院時アスピリン服用割合

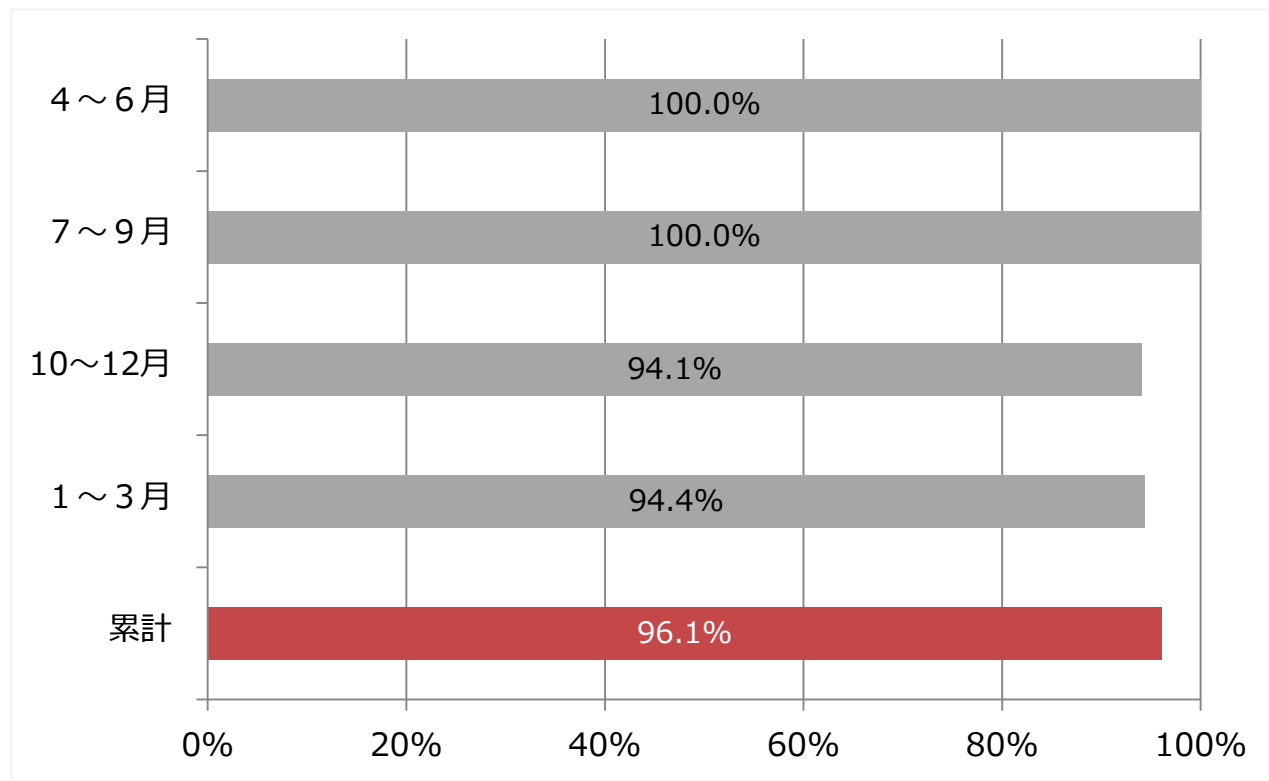
## 96.1 %

(平成31年4月～令和2年3月)

### 指標の説明

急性心筋梗塞は、通常発症後2～3ヶ月以内に安定化し、大多数の患者は安定狭心症又は安定した無症候性冠動脈疾患の経過を辿ります。心筋梗塞発症後の長期予後を改善する目的で、抗血小板薬、β-遮断薬、ACE阻害薬あるいはアンジオテンシンⅡ受容体拮抗薬（ARB）、スタチンなどの投与が推奨されています（日本循環器学会ガイドライン <http://www.j-circ.or.jp>）。ガイドラインでは「禁忌がない場合のアスピリン（81-162mg）の永続的投与」となっていますが、ここでは便宜的に心筋梗塞で入院した患者の退院時アスピリンの服用率をみています。この服用率は海外の医療の質の評価指標としても採用されており、広く認識された指標であるといえます。

(対象症例数：51例)



### 値の算出方法

退院時にアスピリンを服用している患者数 / 急性心筋梗塞入院患者数\* × 100 (%)  
\*死亡された方、2日以内に退院された方を除く